

令和7年1月30日 第2回 犬山市かわまちづくり推進協議会  
意見対応表

| 協議1 犬山市かわまちづくり計画について |   |   |                                  |
|----------------------|---|---|----------------------------------|
| 委員名                  | 質問・意見   | 対応  | 計画への反映                           |
| ①<br>長瀬<br>委員        | 桃太郎港の改修について、国が何かとかとの話があったが、元は名鉄遊船が作ったと聞いている。現在、名鉄遊船は存在しないため、改修をどうするか、市や国が検討する必要があるかも知れないと思う。  | 現在、名鉄遊船は存在せず、木曽川観光(株)が改修するのも現実的ではないかもしれない。整備内容や方法はまだ決まっていないが、今後は国と相談しながら対応を決めていきたい。   | —                                |
| ②<br>梅村<br>委員        | 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組が記載されているが、近年の大増水などで船の通路の河床が浅くなるという大きな弊害が生じており、運航にも影響が出ている。また河床の変化に伴う鮎の生息状況について、漁業協同組合にヒアリングを行うことも良いのではないか。 | 生物の生息・生育・繁殖場の保全・創出に関して、漁業協同組合の取組は重要であり、過日漁協に対しヒアリングを行うことが出来、計画書に反映した。<br>また、河川全体の課題を整理する中で、護岸工事など整備につながるものと、河床の問題改善のための浚渫など、日常業務で対応するものを分類する必要がある。木曽上、木曽一に要望しながら、より良い空間づくりを進める。 | 意見 NO.1<br>計画書 P25<br>に追記        |
|                      | 木曽川には歴史のある岩が多く存在しており、そうした岩にも注目することが必要ではないか。   | 栗栖では2億5,000万年前のチャートが現れるなど、他にはない不思議な空間を形成しており、犬山の木曽川河川空間特有の特徴で魅力の一つと認識している。計画書には重要性をしっかりと記載して魅力があることを再認識したい。   | 計画書 P31<br>に記載済み                 |
| ③<br>丸山<br>委員        | 犬山駅前や犬山遊園駅などの案内板を見直したい。犬山市を訪れた人に対して、栗栖など、魅力的なところがあることをと分かりやすく伝えられるよう改善すると良い。  | 案内板については内田地区から栗栖地区への連動性を考えて一体的に整備する必要があるため、引き続き検討していく。  | 意見 NO.2<br>計画書<br>P29、P32<br>に追記 |
|                      | かわまちづくり計画の基本コンセプトを見て、意気込みが素晴らしいと感じた。この内容を強調するような小冊子を作成できると良い。   | コンセプトをより強調できるよう工夫する。申請書にはフォーマットの制約があるため、別途、概要版などを検討していきたい。  | —                                |

| 委員名       | 質問・意見  | 対応  | 計画への反映                        |
|-----------|--|---|-------------------------------|
| ③<br>丸山委員 | <p>野外活動センターエリアについて、堤防を造るような対策は景観を損ねるため求めないが、速やかに避難できる体制が必要である。内田地区に記載されているような災害対応をここにも明記し、安全が確保されるようにしていただきたい。</p>   | <p>野外活動センターについては、増水や台風時の対応方法が決められており、施設利用者に対して状況に応じて周知、あるいは利用を制限するなど安全第一に運用をしていく。隣接する栗栖園地においても、安全な利活用となるよう、施設管理を行っている桃太郎発展会と協力しながら、利用者への声掛け等を実施することとしている。</p>                               | —                             |
| ④<br>松田委員 | <p>犬山市の強みは、多様な主体による市民活動やNPOの存在である。多くの市民が積極的に地域のために活動している。このことを踏まえ、市民団体等との連携を意識した内容を、計画の中に反映できるとよい。</p>   | <p>本市は市民団体が強みであることをご発言の通りである。計画にも表現したいと考えており、推進体制において具体的に記載する。</p>  | 意見 NO.3<br>計画書 P22<br>に追記     |
|           | <p>定量的な目標が記載されているが、今後の評価においては、参加者や市民活動団体などの主体の数が一つの指標となる。また、地域の方々だけでなく、より多くの市民が利益を受けられることが理想である。</p>   | <p>目標指標の設定に関し、定量的な数値に加えて定性的な指標も必要であると認識している。その中で、市民の参画状況を測るものとして、「地域との取組みの実施回数」を設定することとする。多くの市民への受益については、整備によって賑わいが生まれ、多くの来訪があり消費が生まれること、地域の方が活動できる場と機会が作られることで、市民の皆さんにメリットがもたらされると考える。</p> | 意見 NO.4<br>計画書 P21<br>に追記     |
|           | <p>他計画との整合性、調和について、今後、総合戦略が改定される可能性があり、そこに河川空間の記述があれば、まさに「初めの一步」となるため、連携を図ることも重要だと思う。</p>  | <p>総合戦略と本計画の連動性は、市が策定する計画の整合の面で非常に重要である。将来においては、本計画が総合戦略や観光戦略にもフィードバックできるように努める。</p>  | —                             |
|           | <p>犬山と各務原の広域観光推進協議会に関する記載があるが、各務原市とは、木曾川を核としたまちづくりを進めており、過去に「まちづくり盟約」として協定を結んでいる。</p> <p>これについて地域の強みとしてどこかに明確に表現されると良い。推進体制や協議会のあり方も整理が進められているが、引き続き検討をお願いしたい。</p> | <p>各務原市とは木曾川を挟んだ両岸で鶺鴒、花火、船イベントなどの取組みを両者で実施しており、かわまちづくりの重要なパートナーである。「まちづくり盟約」を結んでいることについて、しっかりと明記する。</p>   | 意見 NO.5<br>計画書 P29、P32<br>に追記 |

| 委員名            | 質問・意見   | 対応   | 計画への反映                              |
|----------------|---|--|-------------------------------------|
| ⑤<br>阿部副<br>会長 | <p>推進体制について、市民活動を積極的に行っている河畔 de カタリーヴァやミラマチ栗栖などの具体的な団体の姿があまり見えていない点は、改善の余地があると思う。</p> <p>体制図についても、2つの地区が本当に同じ体制で進められるのかという点は整理が必要である。</p>   | <p>スキーム図については、まだ検討が必要だと考えている。整備後の運用形態を示しているが、現在関わっている内田の河畔 de カタリーヴァやミラマチ栗栖の存在が見えにくい点をもう少し補強する形で整理したい。</p>   | <p>意見 NO.6<br/>計画書 P22 に<br/>追記</p> |
|                | <p>19 ページの指標については、住みやすさや観光客の満足度が向上すること自体は非常に良いことだが、それが「かわまち」の影響なのか、ほかの施策の影響なのか後々判断しづらくなる可能性がある。もし「かわまち」と観光施策が密接に関連しているのであれば、それを示すデータ（観光客のかわまち施設利用率など）があると、より説得力が増すと思う。信濃川の事例のように、売上や経済波及効果を指標に入れる方法もあるので、必要に応じて検討してみても良い。</p> <p>指標をより強調することで、貴団体の取り組みにも役立つと考える。</p> <p>また、富山県砺波市のダム湖上流では、観光遊覧に多くの外国人観光客が訪れており、インバウンドの可能性を感じた。水辺の風景は地域住民にも外部の人にも魅力的であり、かわまちの取り組みにおいても活用できるのではないか。</p> | <p>計画における目標指標は非常に重要であり、本市観光とかわまちづくり全体の進捗を把握するのに意味のある数値となるよう、ご意見を参考にさせていただき、指標の読み取り方も含め再度検討する。</p> <p>素案では、かわまちづくりの進捗により、木曾川河畔内田地区への来訪者数が増加していくことを測る指標として、内田地区至近にある犬山遊園駅乗降者数を設定した。</p> <p>また、川遊びの高まりを測る数字として木曾川鵜飼や遊覧船の乗船者数を計上することとした。</p> | <p>意見 NO.7<br/>計画書 P21<br/>に追記</p>  |

| 委員名       | 質問・意見  | 対応  | 計画への反映                     |
|-----------|--|---|----------------------------|
| ⑥<br>板津委員 | <p>名古屋鉄道としても、この犬山遊園、犬山駅を中心に、城下町に集中する部分を広く面的に広げていきたいと考えている。</p> <p>14 ページの将来構想図では、犬山駅から犬山遊園駅へ至る回遊ルートが示されているが、ルートを整備しただけでは人が自然に回遊するとは限らない。どのように人を誘導し、回遊を促すかが重要になる。</p> <p>また、犬山遊園駅に到着した際、内田地区エリアの視認性が低いため、その先にどのような魅力的な体験が待っているのか、期待感を醸成する工夫も必要である。</p> <p>人々がどのように内田エリアへ集まるかを多方面から検討する必要がある。サイン整備だけでなく、ルートの形成や名古屋鉄道との連携による PR の強化など、多角的なアプローチが求められる。より魅力的な回遊ルートを構築するための深掘りが必要である。</p> | <p>これからの犬山観光にとって回遊性は非常に重要である。計画書 P15 は犬山の観光戦略に記載されている回遊イメージであり、ぜひ実現させていきたいと考えている。</p> <p>その中で、河畔へ誘導できる仕組みや仕掛けが必要であり、ご指摘のとおり、適切なサインの掲示や PR の手法検討、そして何より河畔の魅力向上が不可欠であると認識している。</p> <p>回遊性を高めるため、周辺の宿泊施設等とも連携を図り複合的な取組みとしたい。</p> | 意見 NO.8<br>計画書 P29、P32 に追記 |
| ⑦<br>奥村委員 | <p>飲食店が夜営業の場合、お酒を提供することが多く、川沿いへ下りる人が増える可能性があり、転落防止のために照明などの安全対策が求められるかもしれない。</p> <p>また、飲食店の誘致は、城下町の人流を分散させる点で良い取り組みだが、往来時の安全性が気になる。特にインディゴ付近から堤防へ向かう際、歩道がなく危険に感じる。歩道の整備が難しい場合でも、グリーン帯のような明確に歩けるスペースがあると良い。歩行者が安全に移動できる環境を整えることが重要ではないか。4 ページの図では、車道部分が黒く塗られているだけなので、歩行空間のイメージが分かりづらい。</p>  | <p>昼だけでなく夜のにぎわいづくりは重要だと考えており、そのため、照度を高め安全性を確保することが必要である。現在は、遊歩道など河畔全体が非常に暗いため、照明によって防犯の面も含めて安全で安心して滞在できる空間整備を検討していく。</p> <p>P35④自動車速度抑制対策や⑤交差点安全対策、⑥歩道再整備について、歩行者が通行・横断しやすい設備として、民有地側と河畔の行き来がしやすい環境を整えることを考えている。</p>          | —                          |
|           | <p>県道栗栖線については、毎年県知事に対して要望を行っており、市とも連携しながら進めている。また、中部地方整備局にも整備を強く要請する予定である。会議所からも県に対して要請を行うよう求める方針である。</p>  | <p>栗栖の県道に関する要望について、ご協力いただき感謝する。市としても随時、様々な場と機会を捉えて県に要望を続けていく。</p>   | —                          |

| 委員名        | 質問・意見  | 対応  | 計画への反映 |
|------------|--|---|--------|
| ⑧<br>日比野委員 | 犬山朝市において、現在最も重要な課題は駐車場の確保だったが、約 480 坪の民地を駐車場として暫定利用できるようになった。引き続き、民間事業者との交流を深めながら、将来的に営業店舗としての活用の可能性もあるため、協力しながら取り組んでいきたい。 | アンケート調査においても必要な整備項目の一つとして「駐車場」が挙げられている。河川空間内は敷地も限られているため、民地側で駐車場が確保できることは大変有難い。かわまちづくりは、河川整備だけでなく、「まち」側の取組みをあわせて、空間全体の魅力づくりを進めていきたい。                  | —      |
| ⑨<br>安藤委員  | 地質調査の点で漏水に関しては調査していないのか。   | 今回の地質調査は、堤防に盛土などを実施する際に材質や強度を調べるものであり、場所も異なることから、橋のたもとの漏水は今回の調査対象ではない。<br>しかしながら、漏水については課題として十分に認識している。地域住民の皆さまからも強くご意見をいただき、国に対し継続して排水対策の実施を働きかけていく。 | —      |
|            | 栗栖までの歩道整備が重要である。   | 奥村委員にお答えした内容と同じであるが、都市整備部とも連動しながら、随時県に要望していきたい。   | —      |